

鹿児島島の昆虫37

奄美群島に侵入したクマゼミ

昆虫担当 金井 賢一



2012年7月喜界島で採集したクマゼミ

クマゼミは本州の関東地方から西側、四国・九州から与那国島までの南西諸島にかけて広く分布しているセミです。しかし、奄美大島や喜界島、徳之島には分布していないと、1987年に元鹿児島県立博物館館長：福田晴夫氏が報告しました。なぜこの地域にだけクマゼミがないのか、非常に不可解であり、かつ面白い状況でした。

ところが、1990年代になり奄美大島で鳴き声が記録され、少しずつ採集されるようになりました。2000年代になると徳之島でも鳴き声が記録されるようになり、クマゼミが侵入したことが確認されました。2010年前後になると、奄美大島ではクマゼミが広範囲で鳴くようになり、笠利から名瀬市までとぎれることなく発生している地域が見られるようになりました。また今までのクマゼミの発生地から山地で隔離されていた奄美市住用でも、2012年には鳴き声が聞こえるようになったと知人に教えてもらいました。奄美市名瀬ではクマゼミが大発生する公園が見つかり、2007年にはその公園での羽化消長を調べました。12本のデイゴの木に付く羽化殻を1ヶ月間回収したところ、619個になりました。このように、クマゼミは奄美大島に確実に根付いてしまったようです。

大きな体のクマゼミですが、そのため自力

で海を渡るほど飛べないと考えられます。奄美大島に侵入した方法として、一番疑わしいのは、樹木の輸送時に幼虫がまぎれこんだというものです。先に調べた名瀬の公園では、平成元年（1989年）冬から平成2年春にかけて、公園整備を行いデイゴを植えた記録が残っています。デイゴは沖縄県の県木で、南方系の植物です。このことから奄美大島には南方のクマゼミが持ちこまれたと思われる。その証拠に、奄美大島のクマゼミに見られる、腹部に白斑がないという特徴は、奄美大島の北に位置する小宝島や屋久島、鹿児島県本土のものとは異なり、沖永良部から宮古島までのクマゼミのものと同じだからです。



喜界島でクマゼミのいた林

さて喜界島のクマゼミに関しては、2008年に湾小学校の生徒が1匹採集した記録がありましたが、その後不明でした。2012年7月17日、私が喜界島において調査したところ、湾小学校の近くの神社で多数のクマゼミが鳴きあっているのを確認し、オス2頭採集することができました。また小学校から直線距離で約500m離れたホテルでも、翌18日の朝鳴き声を確認しました。その他高校生や中学生が島西側の赤連や坂嶺などでも鳴き声を聞いています。喜界島はいま、クマゼミが侵入した直後の島なのです。今後喜界島でクマゼミが多数発生するのであれば、「なぜ奄美大島周辺にもともとクマゼミがいなかったのか」という点で大きな疑問が残ります。



宮崎県産



出水市産



小宝島産



沖永良部島産

近年奄美大島では、沖永良部島から宮古島までのパターンを持つクマゼミが侵入しました。



奄美大島産